

勉強ができないのは、勉強ができない原因がわかっていないからだ。

勉強ができないのは、思考や知識の徹底性・確実性を欠くからだ。

それは繰り返すというトレーニングを欠いているからだ。

より根本的には繰り返すという勉強の習慣を持っていないからだ。

試験の前になるとあせって一夜漬けのような勉強をし、試験が終わるとほとんど勉強しなくなる人間はこの典型例だ。賽の河原の石積のような勉強をしているのだから、実力もつかない。

まじめに宿題をし、まじめに学校に通い、まじめに塾に通っているが成績が伸びないという人間もこの例だ。繰り返すということは、自分の意志でするものであり、自分で獲得した習慣である。他人から与えられるものではない。真面目に課題をこなすことは、人から与えられたものをこなしているだけで、学んだことを自分の血肉とする繰り返しとは異なる。

そういうくり返しは、暗記主義の勉強であって、思考力を作らないのではないかとの疑問が投げかけられそう。しかし、思考とは判断と推理である。判断とは概念と概念の一致・不一致についての断定である。推理とは、ある判断から他の判断を導くことである。

したがって、思考の出発点には「概念」がある。ある事柄を概念的に把握できるようになるには、かなりの知識がいるし、判断・推理のサイクルを繰り返すことで概念内容を深め確実化することが必要だ。この基本になるのが繰り返しということだ。これは、「イイクニツクロウカマクラバクフ」とか、「スイ

ヘリーベボクノフネソウマガルシップスクラーク」とか、「A whale is no more a fish than a horse is」とかとは別次元のことだ。

また、判断や推理も繰り返しのトレーニングを経ることで精密さを増していく。ピアノの練習を繰り返すことで奏でるメロディーが精密になるのと同じようなものだろう。

したがって、繰り返しは単なる暗記主義ではない。思考力を磨くことになる。

ちなみに、最近の共通テストでは「思考力」らしい問題が出されているが、一種のクイズのようなものにも見える。そのクイズの答えを出すことも「思考力」には違いないだろうが、あのようなものが「思考力」の本質をなすものなのだろうか。

共通テストのようなテストを受けなかった昭和のじいさんは、共通テストを受けている令和の若者に思考力で劣るのだろうか？ だったら、今の政界の重要メンバーはみんな令和の若者と入れ替えた方がよいかもしれない。

「必要は発明の母である」とか「窮すれば通ず」などというが、本当の思考力はそれを必要とする状況があって初めて発揮されてくるものであり、繰り返しによる知識や思考のトレーニングもそういう状況で始めて、思考を支えるために役に立ってくるのではないか。これは知識や思考を現実との取り組みの中で我がものとすることだ。unlearn とはこういうことだろう。

そういう状況は、戦争、災害、経済変動、会社の倒産などなどによっても持たされるであろうが、自分の内側から生まれる夢や希望の実現の欲求によっても持たされると思う。

昨今は、前者の外的要因が大きくなりつつある感があり、後者の夢や希望が弱まっている感があるだろうか。

しかし、現実の過酷さが夢や希望を鍛えるのだとすれば、すべてを受け入れて進むしかない。我々は、人類の長い旅の途上にあるのだ……。

……出発点の話からそれてしまった。